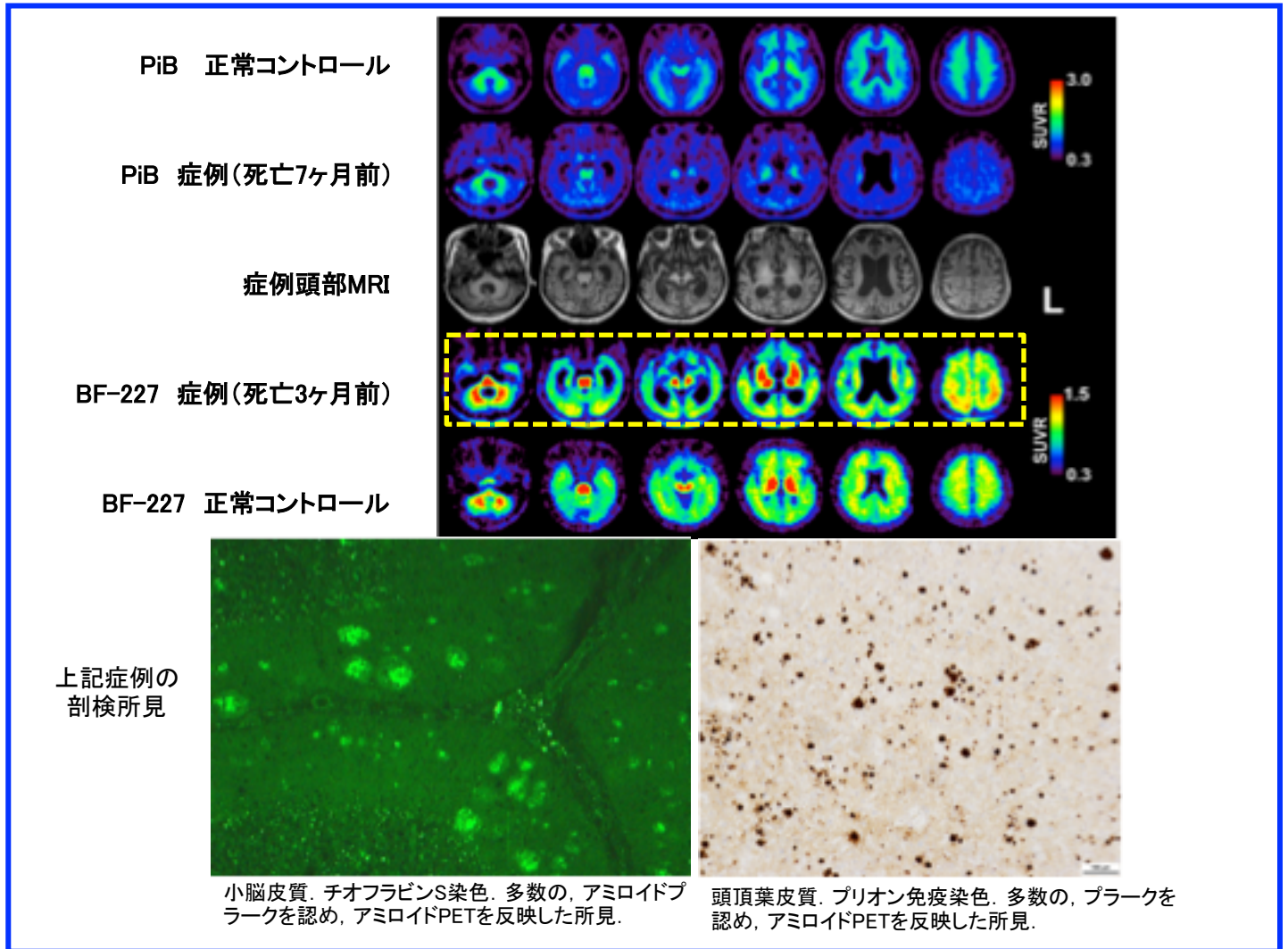


Gerstmann-Sträussler-Scheinker病P102L-129M アミロイドPET(11C-PIB,11C-BF-227)と神経病理所見

研究分担者: 東京都健康長寿医療センター神経病理 高尾昌樹



解 説

1. GSSP102L症例で, 死亡7ヶ月前と3ヶ月前にアミロイドPETを施行. BF227は小脳, 頭頂葉, 基底核で陽性だが, PiBは陰性.
2. 病理学的にBF227陽性部位では, プリオンアミロイドプラークが多数で, BF-227 は, プリオンアミロイド沈着を反映する
3. 2種類のトレーサーでアミロイドPETを施行し, 剖検できた初のケース.